

平成22年度 第1回 佐世保市保健・医療・福祉審議会

議 事 要 旨

【日 時】平成23年3月24日(木)19:00～

【場 所】佐世保市中央保健福祉センター 8階 講堂

【出席者】委員16名(全21名中)

※欠席者…久保委員、金子委員、野村委員、菊永委員、川又委員

(事務局) 末竹副市長、保健福祉部長、子ども未来部長、保健所長、保健福祉部理事(福祉事務所長)以下、保健福祉部および子ども未来部内各課長ほか

※委員長・副委員長の選出

- 会長…柴田哲雄委員(長崎国際大学)
- 副会長…大野貞信委員(佐世保市社会福祉協議会)

■議事(1)当審議会の役割等について

◆七熊委員

審議会の結果の伝達形式について、資料では「会長取りまとめによる口頭伝達による」とあるが、議事録等も作成せず、文書化しないということなのか。

◇事務局

議事録は当然作成して公表する。公印をついた報告書形式等までのものは作成しないということ。

■議事(2)保健・医療・福祉に関する各種計画の進捗状況等

①佐世保市老人福祉計画・介護保険事業計画

◆林委員

高齢者専門部会ではどういう審議がなされたのか、質疑内容などの説明がないとわからない。

◇事務局

主なご質問・ご意見をいくつか紹介させていただく。

(P. 1) 特定高齢者のサービス利用率の向上について
「現在把握された特定高齢者に対してサービス利用者は4分の1くらいだが、もっと利用が進めば介護予防につながるのではないか。」

(P. 4) 認知症サポーターの事業について

「一度研修を受けて“サポーター”となった後の継続や制度改正等を視野に入れてやってみてはどうか。」

(P. 5)「シルバーヘルプサービス」について

「高齢者が高齢者を見守るこのサービスは国として進

めていくべきではないか。」

(P. 7) 介護保険の適正な運営について

「ケアマネジメントの適正化については、介護保険の解釈についてガイドラインなどの基準を示して欲しい。」、「介護支援専門員連絡協議会等との連携を深めるようにしていただきたい。」

◆林委員

そういう意見に対して、どのような対応をしたのか。

◇事務局

いただいたご意見を今後の事業の推進に生かしていく、というのが対応になる。

②佐世保市障がい者プラン・障がい福祉計画

◆林委員

資料「障-1」の1ページの中で、小・中学校への福祉教育という中で、教育委員会にも働きかけという話があったが、教育委員会ではどういう反応があったのか。民生委員として、例えば食事サービスなど学校を巻き込んで活動したいと思っていることがある。まずは教育委員会へ話さなければならぬと思うが、具体的にどんなことができるのかということも知りたい。

◇事務局

専門部会には教育委員会からは出席してもらっていなかったもので、そういうご意見をまとめて学校教育課に申し入れをするということで、専門部会でも約束した。

◆林委員

教育委員会からどういう答えが出されたのか知りたいので、わかったら教えてほしい。

それから、資料6ページに「災害時要援護者の情報把握と支援対策」として、障がい者の方にどのような支

援ができるのか。民生委員として視覚障がい者の方を担当しているが、情報は把握していても何の支援も出来ないと感じている。以前災害があった時にどう取り組むか障がい福祉課に相談に行った際には、「障がいを持った方もプライドがあるから、遠くで見守るべき」という答えしかなかった。個人情報の問題もあるが、今回の震災などを見ると、もう少し前に進まなければならないのではないかなと思う。今後どう推進していくのか教えてほしい。

◇事務局

障がい者だけではなく高齢者などを含めて、災害時に支援が必要な災害時要援護者として、現在約3,000名が登録されているが、その周りの地域の支援者をどう作っていくかが課題で、支援のマニュアルをこれから作らなければならないと思っている。実は防災担当は消防局の防災対策課、災害時要援護者の担当は保健福祉政策課で、他にも関係課があるが、十分な連携が取れていないので、新年度はそこもぜひ進めていきたい。

◆大野副会長

社会福祉協議会では、『災害ボランティア行動マニュアル』を消防局の協力を得て作成している。宮地区などでは関係者の方々が連携し、地域の要援護者の方々と交えて、洪水の際にどこまでどういう経路で逃げるかという訓練も実施されている。地区の福祉推進協議会(市内31地区に民生委員、町内会長、PTAの会長などで組織化。)が主体となるが、災害時にどう避難するのかを各地区で計画化することにご協力いただきたい。

今回の震災で、自主防災クラブの60人の方々が日頃の訓練を基に皆で避難して助かったという話があった。要援護者の把握は非常に難しいが、各地区で作成している『地域福祉活動計画』の中に“地域みんなで見守る”というような項目を盛り込んで、それが確立すれば、いざという時の助けになると思う。この計画の作成、実行にも社会福祉協議会が支援している。

それから、支援施策が7施策という説明があったが、資料中の網かけは6種類しかない。あと一つは何か。

◇事務局

7施策は間違い。正しくは6施策。

◆尾形委員

「啓発・広報」について、芸術祭などにほとんど参加し

ているが、年々内容が充実していると思う。しかし、やはり障がい者が多いので、健常者の参加が多ければと思う。やはりもっと広報が必要だし、学生の参加などについても工夫があつていいと思う。この前は中学生のブラスバンドが参加していて良かったし、障がい当事者が学校に行って話をするということもよく行われてきているが、子どもたちがこういう機会に参加したりできれば、小さい頃から障がい者にも慣れて、怖がるようなこともなくなると思う。

また、「住居支援の充実」に関連するが、保証人がいないために施設やアパートに入れないという話をよく聞く。まだ導入している自治体は少ないと思うが、本市でも公的保証人の導入について検討していただければと思う。

◇事務局

勉強不足なので、今後研究させてもらいたい。

◆柴田会長

芸術祭は、PR不足だと感じられているのか。

◆尾形委員

たくさんの方がいらつしゃついていたし、PR不足とは思っていない。ただ、難しいと思うが、若い人とか身近に障がい者がいない方がもっと参加できるようになればと思う。また、同じ日に大村で精神科の先生が講演会をされていた。私も含めてどちらも行きたかったという人が結構居た。そういう調整もできなかったのかなと思った。

◆会長

4ページに盲導犬のことがあるが、佐世保市では盲導犬が1匹もないのは何か理由があるのか。

◇事務局

具体的な回答としては持ち合わせていない。

③次世代育成支援佐世保市行動計画

◆林委員

先日私のところに1月に子どもを出産した20歳の女性が手当の申請に来られた。その方は、水商売で朝の3時からいまで働いて、4時に無認可保育所に迎えに行っている。心配しているが、20歳の女性の家には行き辛しい、携帯に電話するというのも二の足を踏んでいる。

資料「子-2」の1ページに「生後4か月までの乳児がいる家庭訪問率」という項目があるが、そういう訪問をされた時に証明を出した民生委員には「訪問したけど元氣

だった」という一言があれば随分助かる。行政と民生委員がお互いに手を取り合ってやっていくためにはそういうことをしてほしいと思う。

◇事務局

母子健康手帳を交付する方のうち10%ほどが、経済的な理由などを含めたリスクの高い方で、産前産後のフォローをしている。特に問題があるケースは本人の了承を得て民生委員に協力を求めることにしているが、問題がひどくなければ本人の了解が無い場合には民生委員に伝えないこともある。地域で見守っていただいている方々もたくさんおられるので、今後も検討していきたい。

◆林委員

たった一人で子どもを育てているような人にどう救済があるか心配している。どうかよろしく願いたい。

◆尾形委員

働いているお母さんも多いが、病児保育の22年度の見込みが4か所、26年度の目標が5か所というのは少ないのではないかと。目標設定の根拠を教えてください。

◇事務局

市内4か所の小児科医にお願いして病児保育室を開設しているが、利用状況に応じて施設数を検討している。以前の3か所を1か所増やしたが、ここ数年の利用状況はほぼ横ばいなので現在は4か所だが、状況を見て最終的に5か所に増やせればと考えている。

◆会長

病児保育を実施されているのは総合病院などの大きな病院ではなくて開業医の病院だけなのか。

◇事務局

佐世保市では病児保育室は、地域に密着している病院の方が利用しやすいだろうということで、すべて開業医の小児科の病院の中に設置してもらっていて、すぐに病院の先生が対応できるように運営されている。

◆尾形委員

病児保育は、その日の朝具合が悪くなったという子どもたちも利用できるのか。

◇事務局

本来は事前に登録が必要だが、当日の朝からでも空きがあれば登録してすぐ利用できる。

④健康シブさせば21

◆尾形委員

資料は見やすくわかりやすかったが、中間評価では、「D」という評価が多い。「ストレスが歯周病に影響が及ぼす」というようなすごい項目も建てられている。

◆七熊委員

平成14年度にこの計画の策定に関わったが、一般の方も含めた委員の方々のテンションが非常に高く、どんどん目標を入れ込むことになった。「フッ素洗口を行う学校の増加数」の目標として、10校にしようという意見があったりして、項目によってはとても現場とかけ離れているということで抑えたものもある。そういう熱心な委員の方々と協議した目標値を設定して、たくさんいいことを書いてあるが、評価としてはCとDが非常に多くなっている。今回その見直しが行われていくことになる。

また、歯の健康ということについては、最近では口の健康は精神の健康に直結しているということが一般的になってきていて、先日放送された「ためしてガッテン」でも噛むことがいかに大事かということが取り上げられていたし、歯周病を要因とする低体重児の出産や、他にも糖尿病との関係など、いろいろな意味で歯の健康は大事。

ついだという訳ではないが、口腔ケアという新聞記事を配付した。実は介護保険の中に居宅療養管理指導というのがあるが、これがケアプランの中に入っていると随分違うが、なかなかそうならない。県内の利用者は600人弱だが、在宅、障がい者の方の数を考えると、とても広がっているとは思えない。在宅者の主な死亡原因の一つである誤嚥性の肺炎は、口腔ケアをすれば激減することもわかっている。佐世保市の介護保険事業計画では全く触られていないが、歯科医師会では対応できる体制を取っているのだから、こういった審議会を通じて市民に周知しながら、ぜひやっていただけたらと思っている。

◆会長

今回が初めてだったが、専門部会での検討などを経た成果を目にしなが、命と健康に直接関係するこの会が非常に大事だということを痛感した。今後も保健・医療・福祉の向上のためにご協力いただきたい。

【終了】